愛國婦人

明治卅五年三月廿七日　第三種郵便物認可
明治四十二年三月廿日發行　毎月二回（五日・廿日）發行　電話番町千七百四十五番　同五百二十番　振替貯金口座一一三八一番

社説

誘惑

婦言けるは、蛇我を誘惑して我食へりと。（創世紀三、十三）

女子は、昔より人に依り縋るものなり。少にしては、親に縋り、嫁しては、夫に縋り、老いては子に縋る、所謂三從なるもの、これなり。此の如く、女子は縋り纏つき居るが故に、獨立心に乏しく、自分の了見にて定むべき事をも、よくは考へずして、人の言ふて與れるを當てにして居るなり。即ち女子には確かなる「我れ」といふものなく、浮草の風のまにまに漂へるが如く何事も彼方任せに暮らすなり。もし世の人、皆親切にして、善人ならば、それにて可からんも、實際は惡人多く、それに乗せらるれば、酷き目に遇ひ、或は墮落することとはなるなり。

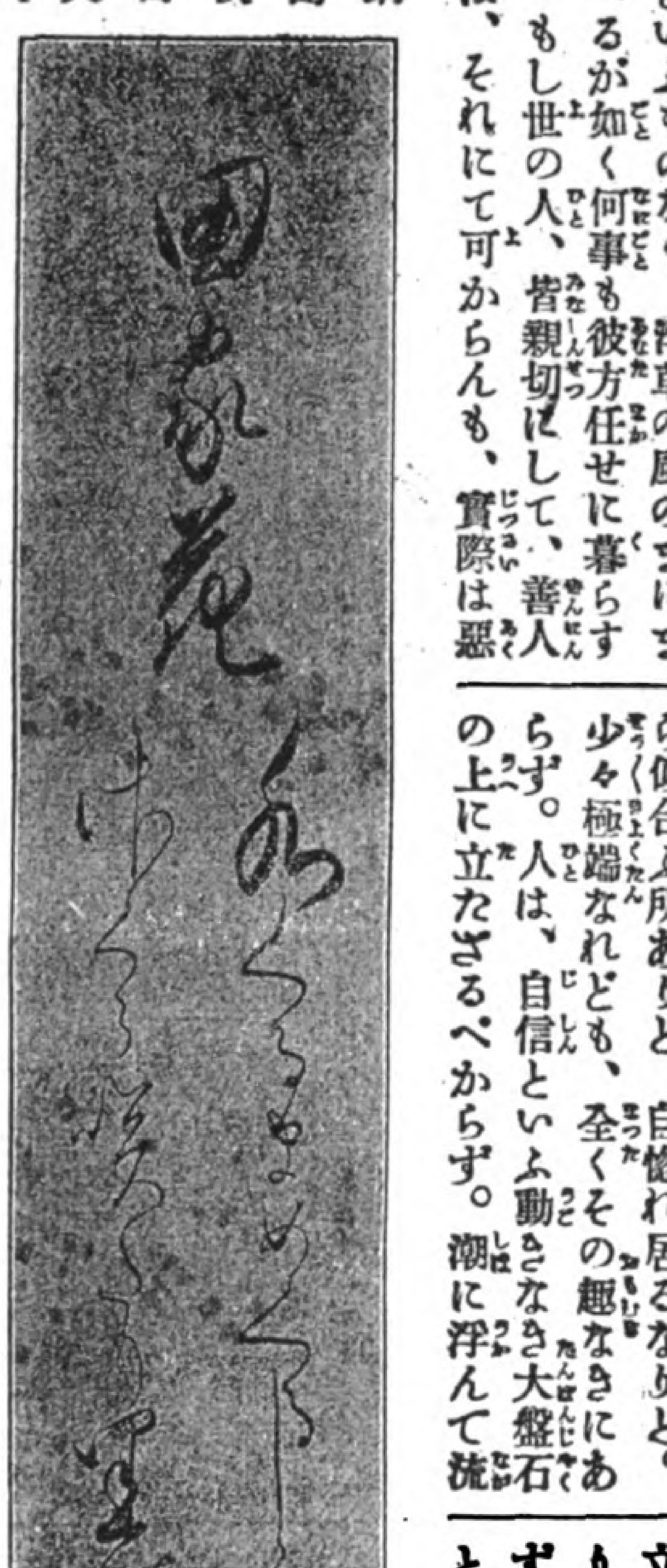
百年の苦樂他人に依るとかや。依り序には、何も角もと、一切萬事依り縋るが、女子の常にて、誘惑に對して、自己を支ふることの出來難きも、これが爲なり。されば西洋の詩人も、「脆き物よ。汝の名は女子なり」といへり。實に碎け易く、脆きは、女子なるかな。

女子は流行を追ふものなり。人が廂を出して居れば、自分ばかりが、出さぬ譯にはゆかず。肩掛をして居れば、自分だけせずには居れぬなり。實際婦人が、人の眞似をする所を、見て居れば、面白いやうなり。これ流行といふ誘惑に打ち勝てざるにて、我れなきが證據なり。男子は流行らうが、流行るまいが、そんな事に頓着するものにあらず。流行を追ふて移るが如きは、男子としては、輕薄にして、當てにならぬ人間なり。自信あるものは、人の眞似はせず。エマーソンは、英吉利人の自信強きことにつきて、左の如くいへり。英吉利人は、其外形、容貌、血統、產地に就ての短所を隱さず。そは彼れのものなる各の事情は、他人に推薦すべきものとして、來れるなりと考ふればなり。たとへ、頭が禿げたりとも、赤くとも、青くとも、足が曲がり居るとも、傷や痣があるとも、腹が飛び出て居るとも、鳥の如き聲を出すとも、其中に自ら似合ふ所ありと、自惚れ居るなりと。少々極端なれども、全くその趣なきにあらず。人は、自信といふ動きなき大盤石の上に立たざるべからず。潮に浮んで流る、泡の如きことにては、駄目なり。婦人は、多く、我れを支ふる確かなる立脚地なく、世の風潮に押し流され、外物に支配されつつ過ぎ行くこそ、情けなけれ。

誘惑は、愛嬌者にて、上手者にて、うつかりすれば、つい引懸るなり。我れこそは誘惑なれ。避けた〳〵と、先觸れして、コレラ患者を病院に運ぶが如く、印をつけて通り行けば、誰れとて近よるものなけれど、誘惑は、最も誘惑らしからぬものにて、人好きのするものなり。人並みにめかしたいも、誘惑にて、それが攻ずれば、身代を蕩まねばならず。まだも恐ろしきは、男子の誘惑なり。世には狼の如く、婦人を喰はんと覗ひ居る男子もありて、専門だけに、調子好く、甘い事ばかり言ひて、婦人をたらすに、妙を得たれば、婦人、殊には若き婦人は、餘程心を確かになし居らざれば、何時しかその係蹄に懸りて、一生拭ふべからざる汚辱を蒙むるに至るべし。近來新聞にも、毎日斯る話が、幾つも出て居ることは、いづれも承知の通りなり。これらも始めから、懸る積りにはあらざれども、誘惑強くして、自信自重の弱きが爲に、遂に心の本城を乗取られて、最も見苦しき降參をなすなり。人には心の踏み止りといふものなかるべからず。誘惑に降參するは、その踏み止りなきの致す所なり。誘惑に抵抗する各の瞬間は、一の勝利なり。立派なる勝利なり。最も愉快なる勝利なり。敵に降參するばかりが、恥辱にあらず、誘惑に降參するは、一層の恥辱なりと知らずや。あゝ誘惑に對する名譽の勝者たるものは誰れぞ。屈辱の捕虜たる者は誰れぞ。

然らば誘惑に打ち勝つの法は如何。第一、誘惑に眼を閉ぢ、これに近かざることとなり。近づきても相手にせざることなり。これには細心と克己とを要す。念には念を入れ」とあるが如く、愼重に物事を考へ、こゝが我慢の仕どころと思へるときは、ぢつと怺ふべし。而して、着物も、帶も、指環も、馬車も、乃至男も、鬼も、惡魔も、汝等何んぞ無力なる。このかよはき、小さき我れを、如何ともすること能はざるかと、笑ふてやるべし。この笑ひが出來るやうなれば、最早や婦人も大丈夫。それには、何よりも、修養といふこと、大切なり。女子に敎育の必要なるも、これが爲めなり。常に本を讀まねばならぬも、これが爲めなり。

當代名家選
鍋島侯爵夫人



鰯と橄欖樹

日本の鰯の鑵詰は遠く伊太利までも輸入して居るそうである。其處で佛蘭西では鰯の橄欖油漬をたべさせる處がある。これは仲々うまいものださうである。

橄欖樹は南國に產する樹であるさうなしかし濕地を厭ふから、日本の内地では絶望だと云ふことである。

莊内方言の一二

出羽の莊内で使はるゝ方言のうち珍らしいもの一つ二つを御紹介する△ろそん　又は「ろすん」これは御婦人方のお好きな南瓜のことです。「かぼちや」も「ろすん」も國の名で、東埔寨、呂宋のことです△あんぴん　山形市街にアンピン餅と云ふ招牌が處々にありますが、これは餡餅のことであります。ピンとは餅と云ふ字の唐音でありますから餡餅餅とは重言です△いなには　饂飩のことを「いなには」と莊内の者で云ひますイナニハとは秋田縣雄勝郡稲庭村のことて、こゝから饂飩が產出されるからであります。

清國北京から出る『燕塵』と云ふ雑誌に、斯う云ふ面白いお話が載つて居ります。

支那人の目には、日本人の名前で餘り長い苗字と名前とは、同じ人だと受取りにくいことがあります。彼の小田切萬壽之助氏が上海の總領事になられた當時、或清國人が領事館に書をよこした、その上封に

△△△△△△小田切總領事　△△△△△△△萬壽之助副領事

同氏の名と姓は兩斷されたのでありました。

社告

御承知の通り本誌は非常の部數を毎號印刷致居候とに候間前金切れの御通知一々致兼候に就右事情御諒承の上雜誌代前金切れの諸姉は此際御拂込被下度願上候　敬具

創刊明治卅五年三月廿七日●定價一部金三錢五厘
半年分金四十二錢●全國無遞送料●廣告料一行六十錢
發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人發行所
發行兼印刷人山河俊夫●編輯者永井徹一●全部禁轉載

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

我が國の婦人に望む箇條（上）

文學博士　遠藤隆吉

近來女子の活動が段々と盛になつて來るのは誠に喜ぶ可き現象である。殊に愛國婦人會の如きは、多くの婦人の方々が集合をして國家のために計る機關として、それに依つて活動をして國家的觀念を發成するのは實に見逃す可らざる偉大なる効力ある者だと思ふ。

元來婦人の職務の中で何が一番重大なる者であるか、一番大切なる者は何ぞやと云へば疑もなく家庭教育にあるてあらう。で、如何なる富豪と雖も亦如何なる貴人と雖も、子供の教育はこれを他人の手に任せてはならない。子供の教育を他人の手に任す程小膽であつてはいかないと思ふ。如何に婦人の志は小いと云つても子供の教育を他人に任すやうな小い志ではいくまいと思ふ。凡そ人の世の中に立て爲すべき事業は澤山あるに違ひない。けれども、婦人の事業として最も大切なるものは何であるかと云へば子供の教育である。で、健康なる國民を造り、國家に貢献することの如何に大なるかを考へて見よ、又偉大なる人物を造りて、其人物の國家に及ぼす効力の如何に偉大なるかを考へて見よ、思ふて茲に及んだならば見童教育の非常に重大なる事業であると云ふことが分るてあらう。勿論間接てあり且子供の背後に立つて行ふ仕事てあるが故に直接に花々敷く目立たないけれども、其効力の至大なる點に於ては實に非常なるものがあるのである。又人は能く何人に限らず有つて居る所の自己の名を不朽に傳へむとする希望に就て考へたならば、如何なる莊麗なる高樓大厦を築いても、一朝不幸にして火災の爲に烏有に歸してしまふてはないか。どうしても百年の年月は支ふることは出來まい。縱し又如何なる立派な學校を興して見た所で到底廢滅に歸することは免れまい。又百萬の富を積んで見た所で若し子孫が放蕩をすれば悉く失ふて仕舞ふ、けれども自己の名が不朽に傳はると云ふのは子孫に依る事が非常に多い。幸に偉大なる人物を子となしたりと假定せむか。其偉大なる人物の名に依つて不朽に傳はるのである。自己の名を神聖に呼むでくれる所の者は自己が教育したる人物にあることは素よりてある。が、其中に於ても子供等は殊に關係の深い者てあるから、此點から考へて見ても名を千歳に止めか功を不朽に建てむとしたならば、子供の教育の忽がせにす可からざる事は勿論てある。又偉大なる子供を持つ事の如何に幸福てあるかと云ふ事が解るてあらうと思ふ。で、從に花々敷き世常の交際に眩目されて、此大切なる家庭教育を忽がせにするやうなことがあつたならば、それは決して譽む可き事てはない。

愛國婦人會の事業が以上述べたる如く國家的觀念を子供の精神に吹き込む上に於て非常に効力のある事と、從つて愛國婦人會の國家のために取りて重要なる者たる事は自分も亦之を充分に認めて居る。で、此會の愈々隆盛に成る事を希望する。又此會の盛なると同時に婦人會に關係のある婦人方の家庭に於ける教育が益々盛になり、さうして其家庭より偉大なる人格の人の出てん事を切望するのである。が、若しさうてなく、婦人會が盛になつて來ても之に關係ある方々の家庭に充分なる教育が婦人會に盡力して居るがために充分なる教育をも施す事が出來ないと云ふやうな事があるとしたならば、大いに之は慨歎す可き事てあらうと思ふ。又婦人會の月々の會合と云ふて見た所で其程時間を要する者てはないから、其而已のために婦人が家庭教育を忽せにすると云ふやうな譯はないのである。けれども自分の今日婦人方に望む所は非常に多い。又今日婦人の會合は非常に多い。此多くの會合に出て所謂交際社會の花ともなり、又花とても諂はれ、又社交的の婦人を以て目せられやうと云ふやうな考に充滿せられて、殆ど家庭を後にすると云ふやうな事が若しあつたならば、夫こそ非常に誤解の甚しい者てあらうと思ふのてある。先づ家庭が修つて家庭教育が充分に届いて然る後に始めて社會的の交際に從事するのがよいと思ふ。

江戸時代と宗教

江戸時代で最も注意せなければならぬことは、儒教の發達てある。儒教は從來はたゞ文字文學としてのみ扱はれてをつたのに、此江戸時代になると、終に宗教的形式を取つて、一つの道德教として其勢力を張る樣になつて來た。一體、世が亂離を極めると、宗教心が發達して、各種の宗教が勃興するのは理の當然てあるが、儒教の樣な現實主義、樂天的な教は、昔から我が國民にはよく呑み込まれて居つて、佛教思想とよく融合してをつた。儒教でも、神道でも、その根抵は佛教の教理てあることを忘れてはならぬ。處が江戸時代の佛教僧侶は、家康の懷柔策にかかつて自害してしまつた。

皇室、浪人、僧侶、此三つは德川幕府の最も恐れたものであつて、種々政略を運らした結果、遂にいづれも無能になされてしまつた。他の方面ては、例の一時天下を聳動した天主教も、全く覆滅の運にあつてしまつた。かういふ有樣てあるからして、何等か新宗教が起らなければならぬ有樣となつてきた。それて儒教は起つたのてある。

幕府では之を奬勵する。講學が流行する。遂に儒教は盛になつて來た。そして所謂武士道といふものは完成した。彼の「心學」は儒教と佛教との混和したもの、「淘宮」は儒佛と陰陽道との混合したものてある。此儒學の勃興は種々の方面へ、まことに善い影響を與へた。平安朝は佛表儒裏、江戸は儒表佛裏とも見られる。

（教育時論より）

牛乳と牛乳搾取場

醫學博士　弘田長

牛乳は百度以上の高熱を與へたるものよりも、寧ろ百度迄の熱を與へたるものならざるべからず。生乳は高熱を與へたるものよりも、滋養の點に於て優良なれど、小兒には成るべく百度の熱を一定の時間附與せしものを與ふべし。

▽牛乳と鷄卵　牛乳と鷄卵との滋養は牛乳一合が鷄卵一個（大小はあれども）と大差なしとの分拆は、予未だ經驗せず。况んや鷄卵の種類を區別し、和種が善良なるや、洋種が善良なるや、或は輸入されたる支那卵が善良なるや熟知せずと雖も、いづれも滋養に富めるは事實なり。然しながら、小兒には、哺乳期に於て殊更消化し易き食料を選擇するとせば、牛乳の飲み易き、消化し易きに敵するものなし。

▽牛乳と搾取場　此貴重なる牛乳に對しては、殊更に注意を拂ふべき筈なるに拘はらず、一般の牛乳搾取場は、完全なる運動場、搾取場繋留舍等なくして、唯バラック式に流れ居るは、大に遺憾とすべきなり。元來搾取場は、汽車の便ある土地高燥空氣精良なる田舍に置き、午後五時より搾取したるものを、朝用の爲めに夜汽車にて送り來るべきものなり。

▽搾取場と搾取人　牛乳搾取場は成るべく一大牧場的運動場を有し、コンクリートにて固めたる平面盤上に屋舍、殺菌場、雨中運動場等を造り、繋留場には水道の栓を各所に配置し、不潔物、糞尿は寸秒も留めざる注意を爲すに努めなば、乳牛は健全なる體質を發展し得るや明かなり。殊に搾取人夫は、清新なる身體と清潔なる白布を纏はざるべからず。尚又搾牛に就ては善良なる獸醫をして、搾牛前に必ず乳牛を檢し、異狀を呈せざる時に搾取すべきなり。

▽都市と牛乳搾取場　都市及び都市の周圍に完善なる搾取場なきは、自然の理にして、經濟上止むを得ざることならん。されど、周圍に搾取場すらなきものは、牛疫を如何にして防止するを得るか。予は信ず、完善なるものを建設せんとせば、總ての點に於て田舍の廉價の土地を撰びて、完全なるものを作ることが公衆衛生の爲めなればなり。且つ、又牛乳配達人及び販賣店、ミルクホール等には結核病者を絶無ならしめざるべからず。

▽牛乳の實質と價格　牛乳の價格は高價となるとも、有害の危險少きものを選ぶことに、各家注意を拂ふべきなり。牛乳の價格の高下よりも先づ實質の良否如何を比較し、これに注意すべきなり。牛乳の明き罎は、使用者の公德心に依頼し、各自が其清潔を尊ぶ爲めに、清潔に洗滌し置きて、牛乳配達人に返付すべきなり。米國の都市にては、これを實行せる處多し。

△淑女の美德　世には其の意は實に善いのに誰からも嫌はれる人があります。これは圓熟と云ふ修養がない爲めです。と斯う云ふ深切な方法で淑女の美德につき詳しく説明してある本てす。原著者はシアラー博士（定價五十錢、東京巣鴨内外出版協會）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肉體と精神を清潔に保存する法

海軍々醫總監男爵　高木兼寛

人間の體軀を無事に維持することに就ては清淨即ちスムと云ふ事が必要である されば我が國は清みたる國でなければならぬと云ふのでスメクェと云ふのです。

かく人の心が澄むやうに清くして置くには如何すれば宜いかといふに、精神を清淨にして置くことが必要である。併して其方法はと云へば儼然と日本の家庭と云ふものに附いて居るのである。◎

それは二樣に出來て居ります。——即ち肉體を清潔に保存するといふことゝ、精神を清潔に保存することゝ此の二つであります。

▲肉體を清潔に保存すとは何ぞ

先づ身體を清潔に保存すると方法としては、如何して居るかと云ふに、先づ死んだ時から始めるより他仕方がない。何故左樣せねばならぬのであるか。

お父さん、お母さんが死になさる。それを如何するかと云ふに、何うしても、それを取り片附けなければならぬ。併し、同時にお父さん、お母さんを殺す者は何であるかを考へて見なければならぬと思ふ。それは云ふまでも無く病毒である。この病毒はお父さん、お母さんを殺したるが如く我身體をも殺すことが出來ると云ふことを忘れてはならぬ。即ち此毒が來て我が父母を殺したので有ますから、これに近接すれば病氣をしなければ成らぬといふ事になるのである。だから此病氣に罹らぬやうに爲なければならぬと云ふ處から、人が死ねば即ち湯をつかはせて、綺麗な着物を着せることが第一となつて居るのである。

何の爲めかと云ふに、體を殺す程の病菌がある。其者を拂ひ落して綺麗な着物を着せて棺桶に入れて密閉する。て、傍の人は如何かと云ふと、やはり儼然と白い服を着て綺麗にしなければならぬ。病毒が其處へ來ちや成らぬと云ふ處から、日本の葬式では白い着物を着ると云ふことになつて居る。

日本では白い着物、外國では黑い着物であるが、外國のことは姑く別にして、日本では斯う云ふ理由で白い物を着ると云ふ事になつて居る。即ち清潔にして居らなければ、自分達が病氣をするからと云ふことになつて居る。

▲何故に肉體を清潔にするか

清める、體を清めると云ふ事は何うかと云ふと先づ朝起きて髮を能く洗はんければならぬ。此頃は大分ハイカラ主義もありまして大分髮の毛が綺麗になつたけれども、數年前まではなか／＼髮の掃除をしない。それから顏を洗ふ。顏を洗ふ時にも鼻をかめとある。鼻をかまなければ鼻の中に病毒が蓄積する。それを段々吸收すれば瘰癧が出來る。頸の周圍に腫物が出來て來る。或は、それが漸次と胃腸まで下つて來る。或は肺に行くと云ふことになるから、そんなのは噴き出せと斯う云ふ事になつて居る。鼻の中から吹き出さねばならぬ。

楊枝を使ふと云ふのは何う云ふ事であるか。——口の中には病毒が澤山あります。それを中に入れては成らぬからと云ふので口の掃除をする。それから目の掃除。目は大事である。子供は最も目の病氣をしますが、それを何故かと云ふと、能く洗はぬから目の病氣をするのであります。これが即ち清淨にする。總て清くすると言ふことの意味に他ならぬのであります。

手足も其通り。爪を見ると眞黑に三日月形に爪垢が入つて居る。これ位毒になるものは無いのであります。昔は餘程嚴重に爪を綺麗に取るといふことが習慣であつた。斯うして體を大切にする。これは淨める方であります。

▲病毒は諸方に散在す

食物でも其通りで、實に日本に於ては昔から生水を飲まぬことになつて居て、火力を以て水中の病毒を殺して食ふことになつて居る。冷えた物は食はぬといふことも此通りで、冷えた物は腐つて來るから其中には毒が湧く、其湧いた毒を食へば病氣をするといふことゝなつて居る それから戸障子を閉てる。これは何かと云ふと、依然病毒が他から來るのを防ぐのである。蚊だの蠅だのと云ふ病毒を持つて來るものを防ぐ。簾を掛ける、蚊帳を張る、金網を張るといふやうな事も、悉く我が身體を保護する爲めである。

それに就いては何う云ふものが持つて來るかと云ふと、蚊だの蠅だのである。その蚊だの蠅が持つて來ると云ふことは世界に於て有名なるコッホ博士が阿弗利加に於て研究したのは何かと云ふと睡眠病。家族中眠つてばかり居る病氣がある それを調べて見ると一種のトレパノソームと云ふものが居る。このトレパノゾームが蠅と云ふ媒介者の力で皿の中に入り それが血の中に入つて繁殖して來て、人が眠るやうになる。

だから斯う云ふ病毒の來ないやうに清潔に保たねばならぬ。これは大和民族の健康を保つ上に必要なことである。

以上は肉體を清潔に保存する上に必要な件を述べたまでゝある。尚ほ精神を清潔に保存することに就いては、次の折に述べることに致さう。

子供の骨骼と衣服（一）

東京女子體操音樂學校長　藤村豐子

▲子供と體格の矯正

子供の衣服の仕立方と其着せ方に就いて、體育上、私の實驗したる事柄を少しくお話して見たいと思ひますが、之を說く前に、先づ子供の骨格に關して母親の注意すべき點を申上げなければなりません。此事は、生理學を學ばれた方は皆御承知の事と考へますが、子供の骨は成分の上に於て、膠質に富んで居りますから軟弱にして撓み易く、且つ彈力を有し、一旦撓みましても、其力が去れば、直に元の形體に復します。之がため子供が遊戯中、自分で手足を折敷いたりしても、容易に骨の折れるやうな事がありません 若し子供の骨が、大人の骨の如に、石灰質に富んで硬く、彈力が少なかつたならば、赤坊の時に衣服を着せるだけでも骨は折れて了ひませうと思ひます。此の如く子供の骨は、初めは膠質に富んで柔軟でありますが、漸漸成長して大人になるに從ひ、石灰質が增して、勞働にも堪へ得るやう硬く強くなつて來るのは、造化自然の功、實に妙ではありませんか。處が物には一利一害あるもので、子供の骨が折れ難くして、體育上に大變便利を與ふる點が——若し注意を懈ると——却て子供の體格に大害を招いて、一生虛弱なる身體に終らしむる弊が起ります。

子供の骨は一旦撓みましても、其力を去れば直ちに舊形に復しますが、併し度度永き時間同じ處を曲げたり壓したりしますると、其力を除きましても、遂には其部分が撓み切りになつて癒らぬ樣になります。加之ならず、其曲屈せるのを癒すのは、折れたのを癒すよりも、幾十倍困難でありまして、餘程好き方法を以てせざれば、其目的を達し難く、竟には畸形の儘で終つて了ひます。

家庭と宗教（一）

文學士　鈴木暢幸

宗教には色々の宗派と云ふものがあるだけに、これ程世の中から誤解されて居るものはありますまい。まづ誤解の大凡を數へて見ますと。

一、宗教は緣起のわるいものとする人。これは佛教僧侶の現狀が死人扱と墓守とが主なる職業であるのを見て居るからの事であります。

二、宗教は老人隱居の仕事で若い者にはまだ用が無いといふ人。これは淨土宗や眞宗の教が死んでから先の心配ばかりを說いて、一も二も皆來世の準備をさせるに限るのを見て云ふのでありませう。

三、宗教は陰氣なもので、人間を罪惡の煩惱のとばかり罵つて、折角面白い世の中を不快に思はせるものだといふ人。これは佛教なり基督教なりの說教を耳ではかり聽いたものと思はれます。

四、宗教は大きいもので目的は人間以上にあるのだから、社會の倫理道德などには拘はるものではないといふ人。これは眞宗や基督教の舊式な信者に往々見る所であります。

五、宗教は非常に深遠で高尚で凡ての學術の內で一番勝れて居ると誇る人。これは舊式な學問のある佛教學者に多い說であります。

六、宗教は學術以上に立つもので實に巧妙な愉快なものだと稱贊する人。これは新しい學者で、基督教や佛教の教旨を咏ひかけ乍ら、未だ眞髓を自分には得ぬ人であります。

尙數ふれば色々ありませうが、要する所、これを褒める人誹る人其當を得て居らぬが多いのは、眞に遺憾の次第であります。宗教と云ふ文字は英語のレリジオンや獨逸語のレリギオンなどの譯字で、原は羅甸語で神と人との關係といふ意味だと申すことでございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

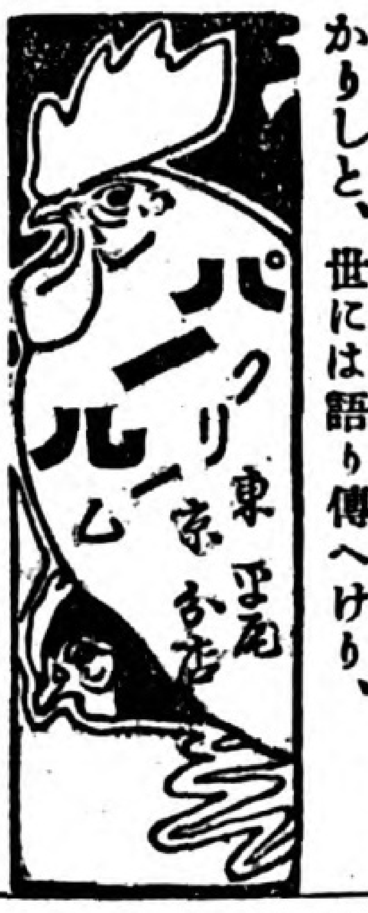
古今名婦譚（三）　鶯所

處女塚

津の國生田河の上に、菟名日となん稱へる處女ありけり、家も富み、容儀風姿すぐれて、美麗かりければ、遠近の蕩子たちが、言寄れるも、いと多かりし、其の中に、同じ郷に住みて、菟原といへる士と、又一人は、和泉の國より來りし、茅渟と呼へる士あり、此二人は、何れ劣らぬ思ひにて、菟名日をば戀慕ひ、明け暮れ附き纏ひて、誠意を盡しければ、菟名日の兩親も之れを聞きて、いと頼もしくは思へども、二士の內、何方を迎へて、婿とせんにも、劣り優りの有らざれば、切りに困じわづらひ、漸くにして一計を案じ、聽て生田河の岸邊に、假の臺をしつらひ、彼の二士をば招き寄せ、夫婦もろ共懇に謂ひけるは、御身たち二人の眞意は、我等夙くより悦びに堪えねど、如何にせん、二人に一人の事なれば、何方を迎取らんにも、怨みを貽すの基ひとならん、因りて我等が思ひ寄りしは、今爰にて、各方の武藝を試み、優劣によりて斯を決せん、幸ひ彼處の渚に、一羽の鳥の遊び居れば、各方一矢これを射させ給へ、中りし御方をば、菟名日の婿とは定めてんと、述べけるに、二士は大に打喜び、斯くてこそ各自の本意にも愜へと、て、聽て齊しく矢を番へ、二人の心も一ツ矢に、日頃の希望を遂げゝんは、只此刹那にあるなれば、弓矢八幡守護らせ給へと、精神を籠めて、睛りつゝハッしと放てば、狙ひ違はず、一ツの矢は鳥の頭に中り、一ツの矢は鳥の後にぞ中りける並み居る人々之れを見て、暫し言葉もなかりしが、菟名日は如何に思ひけん、

住わびぬ我身なげてむ津の國の生田の河は名にこそありけれ

と一首の和歌を唱へ、臺の上より身を跳らして、水中に入りしかば、皆々ハッと打驚き、いかゞはせんと起騷ぐに、彼の二士も續いて飛入り、一人は菟名日の手を取り、又一人は足を取りて、救ひ上げんと悶躁しかど、力及ばず、終いに倶溺れ死にければ、兩親の悲歎大方ならず、爲術も知らざりしが、二士の親たちも打寄りて、愁傷の中にも葬りの事ども語らひけるに、菟名日の父の云ひけるは、三人の者共かく一時に相果たるは、深き縁のあるならん、三人とも一ツ穴に埋めたし、如何にと問へば、菟原の父は承諾はず、同じ國の人々は同じ處に葬るも宜なれど、他國の者をば何とて一ツに埋めなんと、言張り、菟名日と菟原を一ツ穴に葬りければ、茅渟の父は已むなくも、和泉の國より一ト船の土を運び來り、菟名日の墳の側に件の士を盛り建てゝ、墓所と爲し、三ツの墳墓を並び建てしは、いとも悲哀の事どもなり、是より此處を處女塚と名づけて、人々之れを憑吊けり、斯くて歳月を經たりしが、或夜この塚に程近き家に、宿借りし一人の旅客ありけるが、秋の夜の更けわたりて、いと物悽き頃、枕に近く頻りに打鬪ふ聲の聞えければ、起上りて窺ふに、彼の處女塚の邊なれば、行きて見けるに。何事もなし、怪みて家に歸へり、再び寢たるに、夢とも現とも分かねど、若き士の身の內血に染みたるが、枕上に立ちて、某は此邊なる處女塚の側に埋められし者なるが、深く恨みし敵ありて、夜な／＼打鬪へど、敵は多くの太刀弓矢など持たれど、某は他國より來りし者にて、何物も携へず、いと慨めしき極みなり、願はくば御身の佩刀を暫し貸し給はれと請ひければ、旅客も憐れに思ひて、貸與へしに、大に喜び出行きしが、忽ちにして激しき鬪諍の聲起り、暫しが程にて罷みたりと覺しき頃、彼の士は歸り來て佩刀を返し、あな嬉しや御身の仁愛に依りて、多年の遺恨をはらし、いと心地よしとて、懇に禮を述べ幾度か叩頭きて立去りしと思へば、是なん南柯の一夢にこそ有けれ、聽て夜も明け渡りたれば、傍に置きし佩刀を見るに、鮮血斑らにいと腥さし、起出て、彼の墓に到り見れば、此處も同しく血しほ滴りて、苔むしたる墓石のあたり時ならぬ紅の花ちり敷きたらんが如かりしと、世には語り傳へけり、



義狐三吉

村羊生

六

草木も眠るといふ丑滿の刻であつたさうな。

雞舍のある例の裏庭のあたりで、突然けたゝましい物音がしたと思ふ間もあらばこそ、恐ろしい悲鳴につゞいて格鬪の地響——さてはと一家床を蹴つて起上がつた。

中にも血氣の平右衛門氏は押取刀で韋駄天走り、遲れじと續く若黨の提灯をたよりに裏庭に驅け出した。星あれども月なし。黑風一陣蕭だてる老杉古松の梢をわたりて、悽氣身に迫るの思ひあり。何處だ、／＼と呼ばりながら、今しも雞舍の入口をあけやうとして、思はず躓いた物の死骸、生温るい、血糊に足ふみ滑らして、若黨の七造は矢も溜らず、ドッと許りに打倒れた。

スワこそ敵と駈けつけた平右衛門氏も同樣、不覺に折重つて打倒れたが流石は武士、提灯片手に油斷せず、闇にすかして屹と搆へた。

風落ちて萬籟寂たり。四顧闇として敵らしい影も見えぬ。それにしても怪しきは先刻の物音、足ふみ滑らした血糊の正體——それ改めろと主人の下知に、氣勝の若黨はおそる／＼、提灯ふりかざして二度喫驚。——地上の怪物は思ひもよらぬ、大さ小牛の如き尨犬であつた。

家內の人々も追々に驅け付けた。定紋の提灯が、いくつとなく右往左往に走せちがふ。此處にも／＼といふ聲が方々で繰返された。犬の死骸は更に三ケ所に於て發見せられたのである。中にはまだ／＼動いて居るのもあつた。傷は大抵咽喉部に二三ケ所、いづれも物の見事に咬みきられてあつた。人々は唯だ驚異の眼を以て暫くは犬の死骸を見成る許りであつた。

雞舍の中には何等の異狀もなかつた。一體誰れが是等多數の犬を殺したのかと平右衛門氏は取敢えず、番人を呼んで聞いて見たが薩張り要領を得ない。誰れに聞いても知らないといふ。平右衛門氏はさてはと思つた。直ぐに七造を呼んで狐穴を見にやつた。果然三吉の姿は見えぬといふ。それでは屋敷中を搜せといふので、方々搜したが見當らぬ。二度搜したが無効であつた。止むる得ず搜索を中止し、愈々引きあげやうといふ間際になつて、圖らず南寄りの雜物小屋につゞいた板塀の下の窪地に、小さくなつて死んで居るを發見した。

今夜の顚末ははじめて是れで判明した。こんな處に此樣な窪地がある事は今まで誰れも氣がつかなかつたが、いつの間にか塀の下一尺許り掘下げられ、そこから犬が出入りしたものと見え、尨毛が澤山散ばつて居た。狐はと見ると、全身に無數の咬傷を負ひ、鮮血が處々ににじみ出て居る。何しろ四匹の大犬を相手の勝負だから無理もない、此處まで這つて來るさへ實に容易の事ではなかつたらしい一同は今更ながら同情の淚をながした。

七

狐は思はぬ寃罪を被つたのである。逐ひ拂はんにも衆寡敵せず、みす／＼見のがしたのが仇となつて、此の寃罪を受けた狐の無念はどんなであつたらう。高恩を受けた主人に盜賊の疑ひを受ける位なら、寧ろ死んだが得策と思つたのであらう。さうだ、同じ死ぬものならば立派に寃罪を雪いて死に度いと思ふ所から、決死の覺悟で四匹の盜賊犬に當つたのである。時は來た。畜生の一念で首尾よく彊敵を殪したが、是れが爲めに我身もまた全身完膚なきまでに重輕傷を負ふたので、今は思ひ置く事もなしと、叶はぬ足を運ばせてこゝまで這ひ寄り、潔く我身の寃を雪いて始めて目を瞑つたのである。平右衛門氏をはじめ一家の人々よ、いづれも畜生ながら有難き其の志に感じて思はず痛惜の淚を流がした。三吉の死骸は翌日白木の柩におさめられて、裏山の中腹に葬られた。此日秋雨點滴、滲として人を傷ましむるの思ひがあつたといふ。

* * * *

爾來幾星霜、香煙既に斷ゆる事十百年而かも義狐三吉の名は炳乎として人々の耳に新らたなる所以は何ぞや。

人は文明に醉ひ道義地を拂ふの今日、自ら省みて中心義狐に愧ぢざる者果して幾人あるであらうか。

（明治四十一年十二月十四日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

階音の話

大島流人

一、階名のさまぐ

籠の鶯もモウ大分達者に鳴いて參りました。かぎろひの春立つ今日の嬉しさに、私達も靄々たる歌のお稽古でも致さうでは御座いませんか。

樂曲を稽古するのに、樂典通りの高さ長さ強さの聲音を出すべきは勿論ですが、併しそれだけで音樂練習の能事畢れりではありますまい、否それらは寧ろ後の事であつて、先づ第一に――大雜破な言ひ樣ですが、音樂は音聲を借つて表はす美しい情操であるといふ事を閑却してはいけません。――「今頃そんな贅を」と仰在る方も御座いませうが、併し事實はなか／＼さら樂天的に行つて居ません、つまり實地練習の結果、正しく樂譜通りに或は樂器通りに聲音が出るやうに成つても、若し其間に何等表情の美しさが無かつたならば、人は其音樂の内容を疑ふ事になります。即ち音樂の技術を機械的に練磨するのも必要ですが、一方には亦其情趣を酌み味ふ事に忽にしたくないと思ふのです。

て、今日は先づ階名の事を一寸申上げませう。

皆さんが學校の唱歌に i 7 6 5 4 3 2 1 を使つていらつしやるでせう。此が即ち音階の名て、略して階名と申します。昔は――雅樂の方では、

宮　變宮　羽　徵　變徵　角　商　宮

といふやうなのが之に當りました。雅樂は御承知の通り三韓から傳はつて、天武持統の頃から宮中に用ゐられたのです。明治に成つてメイソン氏やエッケルト氏等に習つてから、學校音樂が普及したので、便利上、數字の階名 i 7 6 5 4 3 2 1 を使ふ事に成つたのてせうが、此は音階の順や音程の度を現はすに都合好いかも知れませんが、肝腎の樂聲の情趣は少しも現はれてゐません。此點は矢張ソルファ式に據る方が好いやうてす。即ち、

d　t　l　s　f　m　r　d

所謂ガムトーと申して、もと十一世紀の初(一〇二二年といふ)タスカニィの宗教樂家が發明したのに、レメイ氏が si を輔ひ、伊國で d の濁音に改めたものです。第七音は t よりも si の方が流暢で善いといふ意見もありますが記寫の便利の上から、八連音の中に同字が無いので大層都合が好いし、又 t の舌音なる所にその情趣は具はつて居ると思はれます。勿論英米のソルファ級では、t を用ゐて居ます。

賢母嘉悦勢代子

津川海村

四、

萬に一も許されはすまい。よし許されるとしても、快くは許されまいと、豫期したる此一少年は、恐る恐る其母の膝許に進みよつて、今日のありし次第を話し、是非とも入門することを贊成して、ともに父に願つて下さいましと云つたとき、勢代子は稍久く考ふる態てありましたが、やがて思はず膝を打つて、喜悦の情は其面に溢れていてました。

「汝はあの偉人小楠先生を知る事ができたか。それてこそ我子ぢや。私も汝の前途について、日夜思ひなやんで、今後の時勢は是非とも小楠先生の思想によつて改革さるる事と信じ、如何にかして汝を其門に入れたいと思つてゐた。たゞ當時藩の形勢甚だ面白らず、小楠を憎む事甚だしく、時期のいまだ到來しなかつたために、口外しなかつたばかりぢや。行け、行け、小楠先生の門に入るは、正に汝の前途に美しき光榮ある事であらう。此事もし父君に語らば、叱罵せらるるは當然の事であるから、此上はたゞ父君に知らせずに行く事か肝要てあらうと思ふ。心配するな、すべての責任は自らが負つて、汝に患なきやうに爲やうぞ」と。

時は夜半、父は既に寢に入りて、四隣人なく、子は喜びあまりて其膝にすがれば、母は其子の前途を祝して、嬉し涙に咽んだとのことてありました。

父は小量なれども甚だ酒を嗜む。毎夜晩酌をすすめられて、陶然として醉ひて眠るのでありました。かくて夜八時頃より、沼山津の村莊(熊本市より二里餘)に小楠先生の門に通ふのです。人の往來も全く絶えて、朔風に身も凍らむばかりなる野路を覺束なくたどりつつも、如何ばかり慈母に感謝したことてありませう。

講義をはりて、歸來、萬籟眠ると云ふ丑三つ時、母はいまだ眠りに就かず、絲を紡いて、其子の歸るを待つてゐました。心も凝り身も凍てて、耳も鼻も落ちなむばかりの寒き夜に、歸り來れる年若き小年をいたはらうともせて、「今日は如何な講話があつたか」とそれよりそれと、委細に聽き了へないては、寢に就かなかつたと云ふのです。

かくて夜も明けませう。夜か明ければ其子は時習館(藩の學校)に通はねばならないのてあります。

五、

晝の間は時習館に通ひ、夜に入りては小楠の門に走る、偏に寢食を忘れて、勉強したるものと云ふべく、遂に擧げられて時習館居寮生となりました。居寮生と云ふのは、時習館中て成績の優等なるものを以つて定め、毎年數回、藩侯の前に於いて、講話すべき人てありました。家老以下諸士列席したる處に於いて、氏は今や講話すべき機會に接したのてありました。時に藩の内政紊亂し、他藩に對して徒に小策をのみ弄したる熊本藩は、急刻改革すべきの時てありました。此一少年は今や我時來れりと云ふ意氣込みを以つて、小楠の學說を基礎とし、縱横に藩の失政を罵倒したのです。一座の諸士慄然として色を失ひ、家老憤然として席を蹴つて起ちました。

茲に於いて其父はじめて我子の小楠の門に通ひつつあつた事を知つたのてありました。事既に遲し、茲に至つて如何ともする事能はず。家に歸つて門を閉ぢ、謹愼して靜に命の下るを待つたのです。けれども其妻勢代子は、平然として更に意に介せざるものの如く、夫を勵まし且つ說いて、時勢は小楠の門下生たる人々の手にて改めらるべきを主張し、たとへ如何なる憂い目辛い目に逢ふ事があつても、我子と小楠とは離すべからずと云つて、遂に父をして首肯せしめたと云ふ事てあります。眞に此母にして此子ありと云ふべきてはありませんか。

▲奥村刀自の三週年に

岐阜　日下部酉子

霞野にきえてかへらぬはかなさに
このよのはるをなけくけふかな

お伽小說　妖魔の森

神谷つくば

(一)　森の秘密

希臘の國の北部に幾百年と云ふ間、斧を入れぬ大森林がありました。美しい花や、佳い香の樹が澤山あるので、夫が欲しさに奥深く迷ひ込んで、それッ限り歸らなかつた人も、昔から尠くは無いので、何でも此の森の中には妖魔の類が棲んで居て、迷ひ込んだ者を如何かして仕舞ふに違い無いと云ふ事になつて、誰云ふとも無く、茲を妖魔の森と名稱て、晝ても近よらぬ事になりました。

(二)　末子姫

其頃希臘の都に權勢並ぶ者なき貴族が居りました。始め四人の娘があつたので春子、夏子、秋子、冬子と名を附けて何も佳い兒なので、可兒がつて育てゝました處が、もう出來ないと思つて居たのに、また一人女の兒が生れましたので、名が附けられなくなりました。

「春夏秋冬の次ぎはまた春だが、春子が二人出來ても面白く無い。何としたものだらう、其方に好い考へは無いか」と夫人に相談をしましたが、夫人も之には困つたと見えて

「一番末の兒ですから、何か佳名を附けて遣りたいものですね。夫に此の兒は容貌も大層美いやうて座います」と云ふやうに貴族夫婦は切りに考へた擧句、末に生れた兒だからと云ふので、末子としました。

(三)　邸の裏つゞき

娘達が年頃になりますと、貴族も老人になつたので、官を辭して田舍に引越すやうになりました。

王樣も非常に名殘りを惜まれて、切て都に住んで居るやうにと、御勸めになつたのですが、都に居ては退隱しても、何かとうるさい事もあらう。靜かな田舍に引移つて、娘達には良い婿を取つて、孫を對手に呑氣な生活を遣りたい、と願つたので、夫てはと王樣が御領の中で、最も景色の好い、最も氣候の好い處に、新しく立派な邸を造つて、老貴族に下賜されました。

妖魔の森が邸の裏つゞきに在ると云ふ事は、王樣は勿論貴族一家は誰も知りませんでした。

(四)　奇らしい花の香

老貴族は毎日運動の爲に、邸の畑を作つたり、馬に乘つて近郊を散歩したりして、暮して居ましたが、或る朝邸の裏の方を散歩して居ますと、何處からとも無く、佳い花の香が致しました。(未完)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

久邇宮妃殿下の御平生

現時社會の上下となく格外の奢侈に流れ各れの家庭にありても婦女は虚榮の末にのみ走りて本分を忘るゝもの多く爲に家庭の不幸を釀し悲むべき境裡に陷るもの枚擧に遑あらず此等は婦人自ら招ける罪には相違なけれど一方時代の惡風潮の誘惑甚だしきに起因せずんばあらず茲に畏くも近く御渡歐の途に上らせらるゝ久邇宮邦彦王妃殿下の御平常を洩れ承るに世のいましめとなるべき數々の教へ草あり筆を洗つて記しまつらんに

△睦じき御家庭　妃殿下は人の知る如く島津忠義公第七女にましまし明治十二年十月の御誕生に渡らせらるゝが幼少の御頃より學びの庭の御成績は申すに及ばず春秋の御嗜みも淺からず道々の師を招きよせられ怠らず勵ませ給ひしが宮の御邸に移り住み給ひてよりも專念に御身の務をいそしみ天晴名流の鑑よと仰かれつゝ今は朝融王、邦久王、良子女王、信子女王、智子女王の王子姬宮さへ擧げさせられいや榮えゆく竹の園生に睦ましき御明暮れを送られ給ふぞかしこき極みなるが就中妃殿下には日ねもす空に時を費さるゝことを惜ませられ御附の女供をいましめて何かな遊ばさるゝ御習慣なりとかこの頃の春の淺きに灯の影寒き黄昏には折からの節句の雛など召させられ白桃の歌合せに興がらせ給ひ可愛しき王子姬君の幸のみ神かけて祈らせらるゝも子故の母が御情とて畏き事に申し合へるが殿下にはわけて裁ち縫ひのわざに御堪能にわたらせられ

△御手づからの裁縫　この頃は御居間近くミシンの器械を備へつけられ御徒然のすさびには色うるはしき季の絹を御手づから裁ち切り給ひて王子姬君の御召物を躬ら縫はせ給ふ由雲の上なる貴き御身すら母の務を忘れさせ給はねこそ服膺すべき御精勵の極みと申すの外なけれ尚殿下にはこよなく御五方を慈くしませられ常に質素なる御召物五重ね打揃ひたるを取いて、御手づからしつけの糸を取り捨て給ふなりとか去ればにや王子姬君も殿下の御袖にすがり時としては御伽話なぞせがませ給ふ事もありとか斯く殿下には御慈愛ふかく在しますうち深く學業の御成績を氣づかはせ給ひ朝融、邦久の二王子が學習院小學部に通はせ給ふ御學業の御養育は勿論目下幼稚園に通せ給ふ姬宮御二方の爲にも躬ら御養育の任に當らせ給ひ山田正一氏が豪れる家庭教育の役目に細々御注意遊ばされ王子姬宮が御歸邸後卅分宛机をならべて御復習ある砌も傍におはし一々誤を質し給ふなど御精勵の程誠にありがたき御思召ならずや

村雲尼公御親授

閑院宮殿下の姉君に渡らせらるゝ村雲日榮尼公には辻執事松森僧正以下數名を隨へさせ十日午前八時四十五分神奈川縣國府津御宿院を新橋着の汽車にて發程あらせられ同十時兩國驛發車午後一時四十分千葉縣茂原町着の御豫定にて同地御着後は日蓮宗本山藻原寺に於て御親授あり翌十一日には村雲婦人會茂原支部發會式に御臨場當日は餘興として自轉車の曲乘と云ふ婦人會には珍らしき催ある外薩摩琵琶、和洋音樂、煙火等あり生花盆栽等の陳列もありしと

各女學校の卒業式

都下の各女學校は昨今學年末の試驗中にて孰れも本月中に卒業證書授與式を擧行す其期日確定せる分左の如し

▲東京女子高等師範學校　三月三十日
▲同附屬高等女學校　三月三十日
▲府立第一高等女學校(卒業生九八名)　三月廿七日
▲府立第二高等女學校(卒業生四〇名)　三月廿九日
▲府立女子師範學校(卒業生六二名)　三月廿九日
▲府立第三高等女學校(卒業生一〇六名)　三月廿八日
▲私立三輪田高等女學校(卒業生九六名)　三月廿八日
▲私立實踐女學校(卒業生一一〇名)　三月廿七日
▲私立山脇高等女學校(卒業生五〇名)　三月廿九日
▲私立虎の門東京女學館(卒業生五〇名)　三月三十日
▲私立跡見女學校(卒業生四九名)　三月廿六日
▲私立淑徳高等女學校(卒業生本科五五名、家政科七名)　三月廿八日

孝子旌表に關する請願

夙に對馬の慷慨家として知られたる吉田八助翁(八十)は近時社會の風潮漸く奢侈贅澤に流れ國民一般に輕躁浮薄に走り忠孝仁義の正道地を拂はんとするを嘆じ此際孝子を旌表して賞するに單に一片の褒狀に止めず之れに對して十分の賞與を行はれたき旨の請願書を貴衆兩院に提出したりと

横濱開港五十年祝典

來る七月一日は横濱開港滿五十年に相當するより同市にては當日記念の祝典を擧行し記念館を建築せんとし過般來計畫中なるが又横濱商業會議所にては數年前より横濱開港五十年史なるものを編纂し漸く脱稿して既に印刷に付し記念當日之を發表する由にて猶同會議所にては當日展覽會を開きて遠く嘉永の年間より近代に至る迄の外交資料を陳列し一般の縱覽に供する筈にて其數非常に多く京濱浦賀等の舊家より珍藏物の出品を申込むもの續々ありて既に數百點に上り中に就いて尤も異彩を放てるものは水師提督ペルリが來航の當時某大官に贈呈したる同氏佩用の軍刀の如き頗る珍なりと云ふ

久能山東照宮の大修繕

靜岡縣久能山なる東照宮は一昨年以來の大修繕を漸く此程に至り落成せり該社靈廟は安政年間の大修繕以來明治十一年僅に一部の修理を爲したるに止り外部の如きは甚しき頽廢を生ぜしが規模宏大修理の難さを以て漸次施工の方針を定め去卅七年先づ唐門玉垣等の修復を了せり當時其漆工部は漆工合資會社に於て引受を遂村松專氏監督の任に當りたり今回の工事は樓門及鼓樓の二ケ所にして孰れも夫々專業家の擔任となし漆工部は右漆工會社と靜岡漆工組合にて引受け彩色部分は總て下地より塗替へたるを以て一層の美觀を呈したりと

清正公三百年祭の盛況

去る十一日より熊本に於て催されたる清正公三百年祭は之を機として各種の催しもあり東京支部に於ては先般熱心に寄附金を募集に着手し限なく手を盡したる爲め華族を初めとし熊本に關係ある諸將軍其他を官民有志等清正公の徳を慕ふて寄附金を爲す者多く約一萬圓に上りたりと云ふ

增上寺山門の修繕

芝公園の三緣山增上寺の山門は慶長十年德川三代將軍(家光)の時建てられし以來風雨幾星霜近頃に至りては屋根瓦破損し朱塗所々剝げしより同寺にては之に大修繕を加へばやと曩日重立たる檀徒に相談せしに何れも異議無く之を承諾し來四十四年四月の宗祖開起の當日迄に全部竣工せん目的にて大修繕に取懸る事に決定せり其豫算は十六萬圓餘にて内譯朱塗に四萬四千圓、足場に六千五百圓、屋根瓦に九千三百圓、都合五萬九千八百圓其他鐘樓に三萬二千圓納骨堂二萬五千圓、集會堂に四萬七千圓なりと

▽**小鳥の愛養家**　の中に珍鳥飼と云ふのがあるこれは珍鳥に深き趣味を有しいかなる鳥でもかまはぬ種類の珍なるもの毛色の奇なるものさへ云へば高金を惜しまず買入れる故人となつた人では高輪の奥平伯爵の御隱居などは其の尤なる人で一時に庭も池も座敷も鳥ならざるなく然かも一つとして珍奇でないものは無かつた、御隱居の逝去の後は其飼養の煩に堪へず一時に小鳥屋に拂下げてしまつたが其時鳥籠だけでも大八車六臺に積み餘つた程であるこれと珍鳥を競つたのは本鄕妻戀坂上の味噌問屋高木利八氏である同家も最も種類の多かつた時は四百八十羽に達しそれが一つも同種類でない殆ど和洋の珍鳥種類といふ種類を集めインコ類でも數十種に上つた程である今日では數は少くなつたが尙奇種が二三羽居る鳳凰雀は全身百舌位で羽毛金茶色黑ッ尾の長さは雌雄共に二尺を越え歩く時は其尾をピンと立てる狀がいかにも愛らしい鸚鵡は全身灰色で雪のやうな斑があり尾は眞紅でインコ中の奇種である眞似が上手で唱歌などを歌ふさうだ又同家の鸚鵡は珍らしい長壽な鳥で五六十歳に達して居る最初明治前淺草藏前にて觀物とされたのを高木氏の先々代が買取つたので當主迄三代に飼はれて居るこれなどは長壽なる點に於て珍鳥中の珍鳥であらう京町の三井家も珍鳥飼の方では有名だが殊に目白の異種を愛し全身黄色なのや純白なのがあると金を出すのを惜しまぬ深川木場の材木商の鹿島日本橋石町の鰹節商高島なども聞えた小鳥の愛好者であるが目下は居ない京都では東本願寺の大谷伯は東京の鳥屋仲間にも響いた愛鳥家で其種類も四五百種に達するさうだ

▽**女子蠶業講義録**　(初號)今回大日本蠶絲會より發行せる同講義録は言文一致體の文章を以て專門大家が執筆せる上に總振假名を附したれば多少文字を解するものは誰れも讀み得べく亦解し得る様に平易を主とし加ふるに講師の肖像を掲げたれば恰も其の温容に接して講話を聞くと異らず殊に知名の士を網羅したれば蠶絲業界事蹟の花を此に集めて咲かしめたると云ふを得べし、吾人は斯かる好學と斯かる冊子を手にするを喜ぶと共に廣く江湖に推獎せんとす尙口繪には東宮妃殿下井に蠶絲業御奬勵の御狀附録として添へたり。定價一部三拾錢十ヶ月完結講習料三圓但し會員は貳圓との事

▽**展覽會消息**　太平洋畫會は寺崎廣業氏の天籟畫塾と交渉し同塾の豫定會場たる二號館北部を讓受け六月一日より三十日迄開設する由、日本畫會展覽會は六月一日より二號館南部にて開催する筈にて出品期限は五月廿日迄、美術協會は來四月一日より繪畫展覽會開催の由尙之に就き此程委員五十名を召集し其準備に就き熟議したり。

▽**細民兒童福音**　市の特殊小學校たる万年、三笠、芝浦、鮫ケ橋、霊岸、玉姫の各校は是迄四學年なりしを本年度より普通小學校の如く、六ケ年となし五年六年の二學級は夜學として晝間は夫々職に就かしめ其餘暇夜間を以て同じく普通教育を授くべく、何れも特殊夜學部を新設したるは、實に細民兒童のため最も慶すべき事なり。

▽**白耳王大懸賞**　白耳義王レオポルイ陛下の工業に熱心なるは人の知る處なるが、今回は輕氣球に關する最良の著作にして、二萬五千法を下付すとの懸賞を爲せり。

▽**怠惰者征伐**　獨逸では無職業者の取締を嚴重に遣つて居る若し懶手の怠惰者があれば各地方／＼の當局で何かの仕事を探して遣つて極安い賃銀を拂ふのであるが萬一其の仕事を拒む時は懲戒仕事場ともいふべき處へ投り込んで申譯に一日一片から三片までの僅かな賃銀で萬事軍隊的に一つ容赦なく酷使するそして一旦此處に投ぜられた以上は氣隨氣儘に出掛ける擧は出來ぬのである正業に從事して居る者は住所と職業とを書いた一種の認札を持つて居るから之れによると職業の有無の區別が出來る尙ほ地方到る處に慈善救助會があつて一定の資格ある失業者即ち失業當時迄三ヶ月間正業に就いて居る者若しくは少くともヵ月間失業して居た者ならば救助會より求職上及び其他種々の便宜を得らるゝが一刻も油斷なく仕事を探して見付かり次第に從事せぬと警官から慢性の怠惰者と認定せられて例の總札に印を附けらるゝ所が一度總札に故障の付いた者は救助會に對し無資格となるのである一見行ひ難いやうで然も遺憾なく實行されて居るのは妙である

▽**米國で廿三度目に三つ兒**　米國ヂヨルヂア洲コロムベスの一婦人は二十三度目の產に三つ兒を產みたるが、母子共に健全なるのみならず、先に生し二十二人も健兒にして一家幸福なる生活を營み居れりと、世界の奇談と云ふべし

▽**英國の新聞現在數**　英國にて現今發行さるゝ新聞數は二千三百五十三種の由なるが、今より六十九年前即ち一八四〇年には新聞紙の數五百五十種、一八七〇年には千三百七十種なりしと

▽**自動車の火事**　一月末に米國はボストン附近の停車場より火事起り、自動車會社二棟燒の爲四百餘の自動車は滅茶々々に燒れ果て其損害百七八十萬圓を算するの荒景を呈せしと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京 平尾分店 スミレ香水

和歌

大口鯛二選評

天　東京　飯塚きよ子

おぼろ夜の月しまわたりふく風にうめのかほるはいつこなるらん

評曰、朧夜の月島なつかしげなるところの名にこそ

地　長門　鷹田良子

新らしく家居かまへし川添の庭の柳も青みそめけり

評曰、新宅新柳、殊に川添にして、ゆかしさ大方ならず

人　山口　末田竹子

埋火によりそふよひのうたゝねものとけき春になりにけるかな

評曰、平易のうちに春宵の情趣あり、佳作とすべし

甲部

うたかるた今はてつらん友とちは梅さく園にいてゝ来にけり　青森　三上八重子

いそ山の松のかげをもなつかしくみするは春の月よなりけり　横濱　鈴木まつ子

さき匂ふ梅の木陰にたゝすみてかすみのおくの月を見しかな　岡山　西村長子

ぬひさしのきぬおしやりて子のためにしばし書よむ埋火のもと　東京　岡田春子

ともし火のかげにほゝ笑む黒かみのあるじうつくしひなも美し　東京　松中春子

萌えにけり人のかたみのさし柳見てしおもかげ忍ばするがれ　京都　露緒子

冬かれの木々にかゝれる霞をみてみやこの花をおもひやるかな　函館　五十嵐やす子

一もとの梅たにさかぬ我にはにたれたつれてか鶯のなく　京都　若山きし子

乙部

打たえし友にこの頃訪はれけり庵の軒端の梅さきしより　岡山　清水梅子

打よするなみも靜かに青海原ふれものとかにゆきかよふらん　青森　笹田正野子

黄金より玉より世にも嬉しきは人の心のまことなりけり　石川　篤子

しのばさる春こそなけれ美吉野のかすみに匂ふ花のさかりを　大分　桂木靜子

春もはや日數へにしをきのふけふ梅ちる枝にあわゆきのふる　山口　末田貞節子

春あさみまたあられふる窓の面にかをり氣高きしら梅の花　豐橋　平松いと子

長閑なる田舎の今朝は奥ふかく草刈歌も鳥もかすみぬ　青森　竹林秋子

人とはぬ我家のうめをあはれとやけふも日ねもすうぐひすのなく　岡山　横川明子

はやくきて鳴かすは梅のちりはてむ道わすれしか去年のうぐひす　鹿兒島　松村壽賀子

あいらしきひなのかむりと少女子のこゝろつくしや桃のはつはな　伊豆　藤田秀子

かたむける軒もかきれも白たへの雪のうちよりもるゝ琴の音　三河　蟹江とよ子

春をまつ時もわすれぬ垣根こしかげたにみえぬうぐひすのなく　栃木　水谷なを子

市にすむ友のたよりをまたれつゝまたおりたちて見る櫻花　廣島　爲田よしの

人しれず涙ぬぐひてうき思ひ梅みてひとりなぐさめにけり　淺草　下開こま子

春くれは殘れる雪も消そめてこのもかのもに鶯のこゑ　栃木　檜山いつ

池水のこほりもとけて築山の櫻いろめくけさのはるかせ　東京　三宅ひさ子

うと〳〵と小猫居ねむる南椽微風なり〳〵桃の花ちる　岩代　長谷川よしの

行くふれのかげもおぼろにかすみけり松浦の海の春のあけぼの　岩代　横山紫子

誰か家のこかひなるらん市中に床しくきこゆうぐひすのこゑ　岐阜　小島駒子

嫁きする姉を送してさしかゝる野道ににほふ桃の一もと　岩代　横山楢子

朝な〳〵またさきそめぬ梅に來てにほひまつらし鶯のなく　東京　清水まつ

さしてゆくかたこそなけれふるあめに梅の花笠やつれはてけり　伊豫　武久フヂエ

俳句

內藤鳴雪選評

天　東京　鶴岡登久子

春の水皆加茂川となりにけり

評、四條五條の詩趣の影

地　長門　鷹田良子

淡雪やぬれて小鳥の枝傳ひ

評、やさしき羽ばたきや

人　東京　中山由子

雛まつる小家〳〵の暖かき

評、白酒の舌鼓

秀逸

人形の友譲着たり宵の春　東京　山本ふみ

山寺の花と云ふはな咲きにけり　東京　田島信

春風をたまりに訪はん宿もがな　岡山　清水梅子

しと〳〵と春雨降りて虹一つ　岡山　西村長子

古雛の御顔や御手のよごれかな　京都　露緒子

雨後の月未開の櫻てらしけり　三重　鈴木はる

浮橋に女神の影やおぼろ月　備後　世應龜子

春の野に歌ふ二人の少女哉　青森　竹林秋子

春月や君と我との立ち姿　大分　桂木靜子

日當りの垣斜めなり路の苔　京都　加藤ふみ子

懸賞文苑 課題

□和歌　春季雜詠　大口鯛二選評

□俳句　春季雜題　內藤鳴雪選評

□新體詩　題隨意　編輯局仝人選評

□短文　題隨意　編輯局仝人選評

締切四月五日　發表四月廿日の事用紙は葉書又は葉書大の紙に一定したし。住所姓名を明記せざるものは沒書とす

腦神經精神病科
病室清新　診療確實
東京龜戸町電話浪花二五五二
加命堂腦病院

院長 醫學博士 榊順次郎　婦人科産科 毎日午前診察
副 醫學士 久保德太郎　婦人科外國留學中外科的診察
副 醫學士 田代謹二　婦人生殖器病及泌尿器病內科 一般火木土午後診察
●施診火木土午後一時至二時
婦人科産科榊病院
麹町三番町三三（電話番町三九五）

目方ウリ 大俵炭
かます入 堅土釜切炭
神田三崎川岸 戸塚商店
電本參貳〇八番

院長診察月水金木前松田醫學士診察火土
前窮者施診火木前入院診斷隨時應需松田
林兩副長は目下當院に在勤
電本八八八（病院用）八九八（私宅用）
東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
東洋內科醫院

院長 醫學士 高田畊安
神奈川縣高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在地）
南湖院
河野副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

小兒科專門
小兒喘息、百日咳、
腺病質、胎毒、貧血症、
胃腸病（脹滿、脾疳）
小兒皮膚病
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
東京日本橋數寄屋町（吳服橋外）電本百八十

內科專門 杏雲堂醫院
神田區駿河臺 電本一六六九
院長醫學博士 佐々木政吉

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候
宮內省御用達 玉寶堂
電話下谷（特九六五番 一二四四番）

ミシンを御求め下された時には其ミシンが立派に使へるまでに左の方法を以て遺憾なく御便宜を計ります
東京、大阪、横濱、京都市內 ミシン裁縫出教授 無料
全國各地方 巡回裁縫講習
內地一般 運賃無料
ミシン使用法書 ミシン裁縫書 進呈
家庭用婦人向 シンガーミシン
月賦販賣
シンガー會社
横濱山下町六十一 神戸市明石町 東京銀座通尾張町 大阪南區心齋橋筋
●明細書は御申越次第無代送呈●

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新體詩

一等

東京　神澤幸子

今はとて涙おさめぬ
日は彌生十あまり六日
われは嫁く山を下りて。
「あなめでた」「よき嫁御ぶり」
口々に人ら囃せど
骸なる心をいかに。

十數里かなた都の
赤き旗燃え立つ酒舗に
醉ひ痴れて君は在さむ。

評、人生憾事多し啻ばかりと嫁く人の悽惋、あきらめ雖て酒に思ひを遣る人の、辛さ淋しさ、歌ひ寫されて、讀者の胸を刺すこと深刻なり。

二等

人の輪　京都　露緒子

十字架が赤く畫かれた灯提三つ。
寺町通り――迺返る本能寺わき。
制服も眼鏡も法被股引もゐる。
拍手が起る、若い神學生は咳一咳した。
「此故に神は其獨子を我々に‥‥」
ノーと叫ぶ者、又然りといふ者。
灯提が高くなつた、子が手を揚げた。
女が――子を負ふた束髪の女が、
つと退いた。人浪がゆれる。子が泣く。
玩具の落る音、何處かて十時が鳴る。

評、詩藻の豐富、筆致の精錬、之な當代名流の作に比するも遜色なし、作者の才能、眞に敬服の至りなり。

佳作

故郷春月　横濱　鈴子まつ子

よもぎか庭とあれはてゝ　いふせくみゆる物なれど
故郷と思へばなつかしや　さかりはすぎし梅か枝に
やどの月のみさやかにて

春景色　横濱　板倉かずゑ

手籠を袖に持ち添へて　少女ぞ立てる淺緑
野は土筆菫すみれ　花は錦を織なせり
畑南に浮くとのみ　澄みたる空と鳥啼きて
竹の小弓を携へし　童は蓼にかくれけり
春はてしなきうす霞　峰に靡きてうれ〱と
つゞくは何處森の路　吾家は山の下にあり

夕暮　京都　上田トキ子

西の空茜やうつる庭水に　重なり移る松か枝の
うつる鏡に苔むして　紅縁りのためし皿
長閑けき春の黄昏に　哀れ戀しや霞風に
漣みサット立ちにごす。

お婆様の獨言　長門　河野梅子

六人ありし同胞も　遠き昔に先立ちて
妾は獨り老松の　花咲く春や散る秋を
めぐる車の如く見て　早や九十路も來りけり
わが來し世をば振返り　幾山河を眺むれば
なかしき物は人の世の　斯くまで移り變るとは
あゝ今日の日を諸共に　誰と昔を忍ばまし
知れる軒の月影のみ　あゝ一片の擊あらばこそ

短歌二首

誠之

丘なるや椎の大木の下にして君待ちぬれし夕霧月夜
この路ぞかたみに知らぬいにしへの日に歸るべき追分なれや

社告

本號誌上に發表すべき短文は課題外の應募原稿のみ多數にて、科題「午前九時」の應募少數に付、次回まで發表を延期す

ホルマリン瓦斯消毒
●病室及轉居先の室内病菌撲滅●病毒汚染の諸物品消毒●衣類毛織物類の虫喰豫防●書畫骨董帳簿類の虫喰豫防●倉庫内鼠害及諸害虫撲滅
精細なる說明は御申越次第贈呈す
京橋區本材木町三丁目卅五號地
日本新式瓦斯消毒所
（電話本局二一八三番）

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂　持阿彌

髮洗ひ

あらひ粉

めりんす友染
古渡り唐ざん
其外おもちや式格安物
東京日本橋
赤のれん
おもちや本店
電話浪花四三四五

（注意）
近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小賣物化粧品店に於て販賣致し居り候
●芳香の永く保つ點にて高評也
麝香獸印
ムスク香水
大瓶壹圓　中瓶六十五錢　小瓶二十五錢
東京日本橋本石町四
松澤常吉

東京裁縫女學校長渡邊辰五郎先生遺稿　菊版五百五十頁

高等裁縫講義

定價金壹圓貳拾錢　郵送料 東京市内金四錢 地方金八錢 清韓臺灣其他外國金三十錢

豫約特價 金七拾錢

豫約申込者既に豫定の數倍に達したるを以て愈々印刷に着手せり 特價日限餘日なきを以て此際至急申込まれたし

愛國婦人發行所

此書は日本裁縫界の泰斗故渡邊先生が十數年間大日本女學界の爲いと懇に講義されしものゝ中より粹を抜きて各家庭に必須なるものを集めしにて「書物に依りて實地に裁縫の出來るは先生の講義の外に無し」とは夙に世の定評ある所に候其要目は

○袴（男子用、大人物十種子供物八種、女子用、大人物九種子供物三種）○女小袖○本比翼、附比翼○單衣本襲、半襲○帶（丸帶、鯨帶、男帶）○夜具（夜具五種、布團四種、ドテラ、西洋寢衣二種、寢冷不知二種、蚊帳三種）○東コート、合羽○油單（挾箱、簞笥、長持）○改良女服（大人物子供物）○婦人用猿股○西洋前掛（○大人物子供物）○海水浴着○子供洋服（六種）○被物類及び龜の甲腹掛○足袋、脚絆、手挿手甲○半纏、腹掛半被類

右各種共一々詳細なる裁方寸法の圖解を示し懇切に縫方順序の説明あり○尚此次に發行すべき「普通裁縫講義」には子供大人の着物、羽織、被風、股引、シャツ等掲載可致候

産科婦人科專門 診察毎日午前 入院隨時

岩田病院 淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八

内科一般 午前宅診 午後往診 **板垣亨** 東京神田美土代町三丁目十七番地 電話本局貳千九百七十番

ちゝれもくせも　もはへらけあい　二大奇法

妾の手がけた方で此病にて諸種の買薬して癒えぬ人悉く治りし故夫れて皆様の進めにより世間に廣く御披露せし處一人として御喜び遊さぬ方なし御問合往復はがき

女髪結師 東京麹町飯田町四の十六 安部歌子

○院長ドクトル**木村順吉** **婦人科産科 木村病院** 京橋丗間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

◉まち針をかねた**村島かけ針は便**よく體裁もよくて危げなく**丈夫です** 賣捌所は各針店學校用品店に販賣す御使用を願上候

發賣所 東京市本所區緑町二の二八 村島英子

小兒病一般 ◉京橋區南鍋町風月堂斜向 醫學士 **福田謙之** ●宅診午後（電話新橋一八八一）

饗庭篁村氏著

小説 **選取聟**

洋裝美本全壹册 實價金五十五錢 郵税金六錢

東京 **春陽堂**

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）内科病特に脳脊髄神経疾患 **峰内科醫院** 院長ドクトルメヂチーネ **峰秀世**

皮膚特効美白新劑 **チプリ化粧液**

小瓶三十グラム入 金貳拾五錢 送料四瓶迄八錢

◉本品は西曆千九百〇六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顔たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顔ノアレ」等に最も奇効あり

◉効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす

◉東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（四瓶迄）相添へ本舗へ御注文あれば直送す

日本一手販賣 東京日本橋區本石町 **松澤常吉**

釀造元 千葉縣野田町 **茂木七郎右衛門** 信略號（キハク）又（ハク）

最上醤油 キハク印 **香**

於淡路島博覽會 名譽大賞牌受領

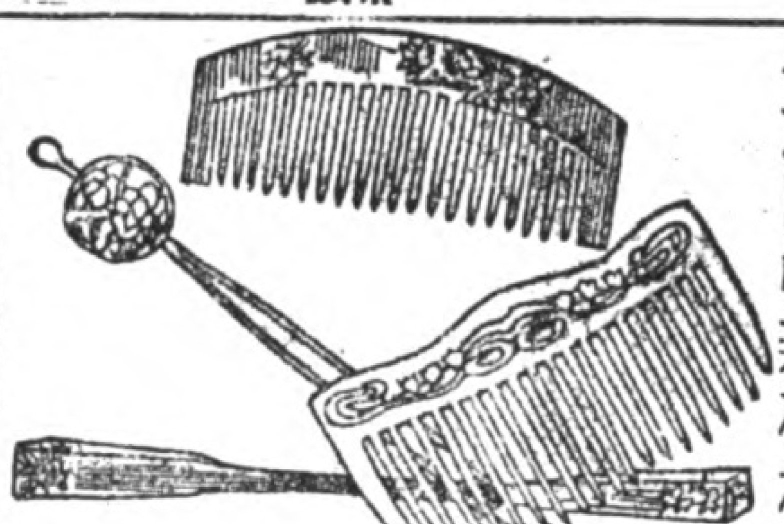
キハク印 醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 **中野長兵衛** 電話浪花五七七四

私立女子音樂學校 生徒募集 普通科、本科、專修科 唱歌、ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、箏曲 神田錦町三丁目十一番地

◉**婦人病專門** 院長 櫻井克己 **櫻井醫院** 芝明舟町十九 虎門外宮様前 電話新橋三三二

▲意匠嶄新破格廉價正札付▲



儀式用鼈甲 櫛笄　象牙蒔絵 櫛中差　金銀寶石入 簪指輪　帶止ピン　珊瑚珠翡翠 玉替　根掛　化粧品

格安土州珊瑚直取引市價よりは三割方廉價并に三拾錢均一物は御進物用として益好評御便利爲御持古るしの小間物引取交換仕候

鼈甲小間物商 **三井屋徳次郎** 東京市神田須田町（電話本局二〇七六番 振替口座一八一三番） 京橋區新橋際 神田裏神保町 博品館内支店 東明館内支店

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）

診察時間 自午前九時至正十二時

内科婦人科 院主 岩佐純

内科 院長ドクトル 岩佐新

外科 醫學士 山村正雄

産科婦人科 醫學士 西村漸

脳病脊髄病 醫學博士 土田卯三郎

東京麻布 **學農社**

本品は畏れ多くも 常宮殿下 周宮殿下 富美宮殿下 泰宮殿下 御使用品

高等香油 **チエリーオイル** 紳士貴婦人令嬢用

千九百七年式巴里流行 乳狀薄化粧料 **フエースクリーム**

珍ら敷新輸入品 最も日本婦人に適し皮膚の營養滑澤に實効ある

佛蘭西新式煉白粉代用品

本品は顔を洗ひ乾きたる後少量を萬遍なくぬり摩擦すれば實に得も云へぬなめらかによきつやを出し香氣よくあれを防ぎ白粉やけ皺のよる憂なし又寒りの汚れることなき嶄新良好なる薄化粧料として紳士貴婦人間に高評あり

定價一瓶三十五錢全國到る所の賣藥小間物化粧品店にあり

東京市日本橋區本町二丁目 チエリーオイル本舗

發賣元 **高橋初次郎** 振替貯金口座一〇九三二番 電話長本局四一一三番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂　神田三崎町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社　京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社　日本橋區蠣殼町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍　京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店　同區南鍋町 廣告社
神田須田町 金蘭社　本郷區湯島 弘道社

色白く艶をだす
松澤ホーサン石鹼
（大形 廿錢　小形 十錢　新小角形 十錢）

◎近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市内賣藥小間物化粧品店にあり

東京本石町四 松澤常吉

東洋一の商品陳列即賣館
第一 第二
帝國博品館

第一館 新橋角 電話新橋一六五二番 二二六一番
あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣す

第一第二館内各店共通商品切手發賣……御買上品は市内無賃にて配達致します……

第二館 上野廣小路 電話下谷五三六番 三〇四四番
館内あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列即賣するの外左記特殊の設備あり
喫茶店。和洋料理。ミルクホール。汁粉。壽司。菓子果物店。美術室。盆栽盆景。理髮店。休憩所。上便所。洗面場。夜でも撮る寫眞場。

專賣特許實用新案
衣裳中入 吹留眞綿

定價 着物羽織共男女 七十錢 九十錢 一圓十錢 一圓卅錢

吹留眞綿は品質精良にして最も清潔なり
吹留眞綿は衣裳中入として至便にして經濟なり
吹留眞綿は字の如くすひださずして衣裳の形をよくす
吹留眞綿は普通眞綿に二倍余の溫さありて且つ丈夫なり

特約店
東京大阪 三越呉服店　東京大阪 白木呉服店　東京名古屋 松阪屋　東京大阪京都 大丸呉服店　東京大阪京都 高島屋呉服店其他重なる呉服店にて目下盛に使用しつゝあり（製造元麻布狸穴吹留眞綿製作所）

東京銀座四丁目十七番地 大和屋綿店 電話新橋一七七六番

東京芝區西久保葺手町 さかいや 電話新橋一五四九番

其外 薄製御婦人用はだ着 は着具合最も宜敷嚴寒より春の始め秋の終に適當品なり

◎御入用の方は特約店にて御買求め被下度候

絕對的安心のできる白髮赤毛染千代ぬれ羽

千代ぬれ羽は使用法最も手輕なり

實用と安全とを兼備せる最上白髮赤毛染
千代ぬれ羽

●男女頭毛赤毛白毛
●婦人用かもじ入毛

總て毛類は一切しなやかに深黑色濡羽色に何人にても容易相染り申候

本品…千代ぬれ羽の特質はぬけ毛又はできもの等生ずるうれいなく千代ぬれ羽其のまゝにてすぐ染付のでき得る事及び手拭紙などまき置く手數なく又染たる後何油を使ふ共髮のかたまるうれいなく染附後如何程洗いても、そちる恐なく能く天性の毛色と少しも變る事無く極めて美しく染得らるゝ特色有り此の千代ぬれ羽は弊舖に於て數年間研究を重ね發明したる完全無比の良品にして世間ありふれの白毛染と違ひ染方手輕にして多大の特色を備える事實に東洋無比の良品に付赤毛又は白毛を御いといの御方は一ビンを御求め御使用の上御高評を賜はらん事を

大三十錢の千代ぬれ羽にて古きかもじの染直しは凡そ五本位ゐは染り升●頭髮の白毛まじり又は赤毛にて毛の澤山有る方は大三十錢千代ぬれ羽を御用ひの方宜敷又二度目よりは小十七錢の千代ぬれ羽にて適當であり升

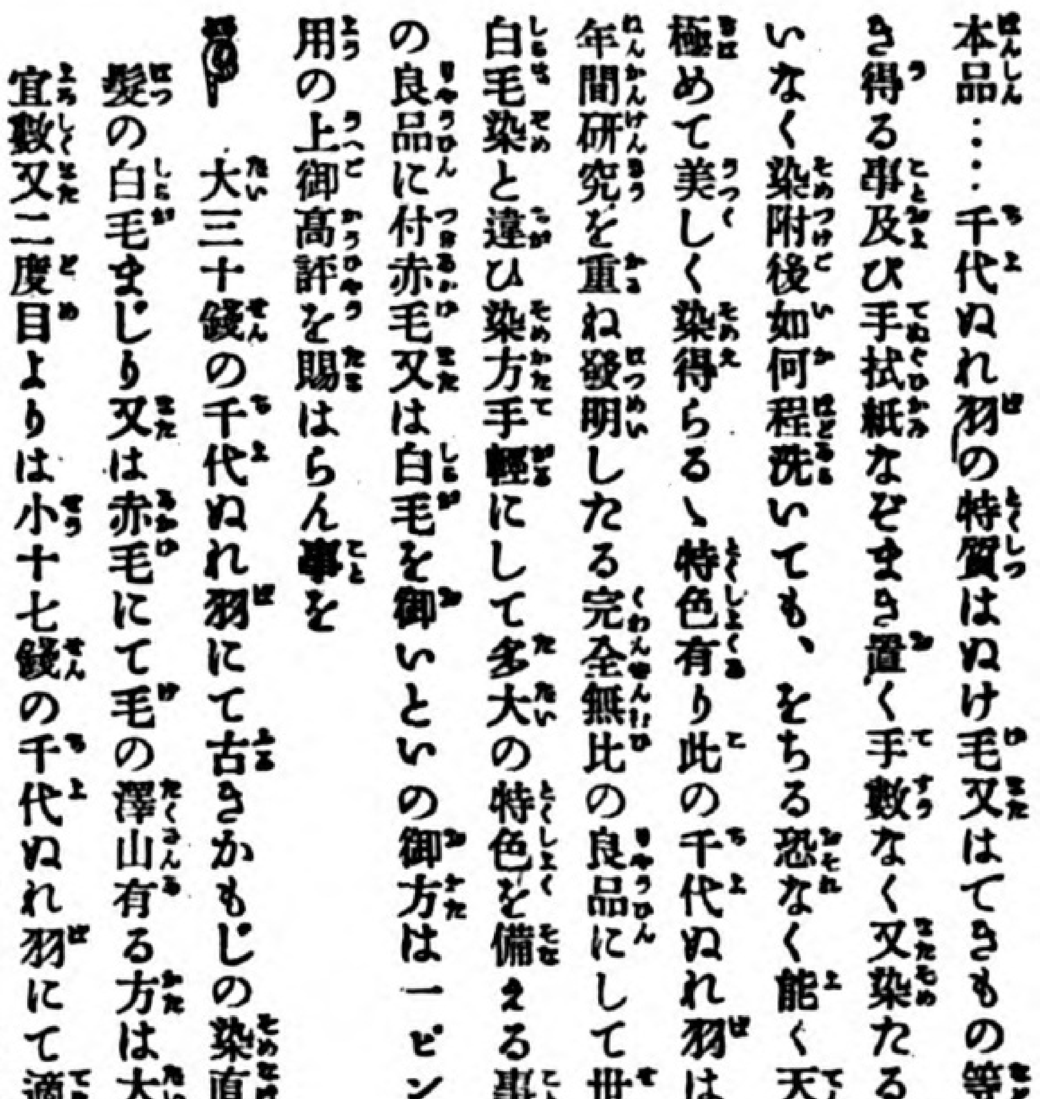
御使ひのこりの分は口をして取り置けば何時でもかわりなく用ひられ升

男女を問わず御老人にて髮の毛の少なき方は用ひざる方よろし毛の少なき方は頭の地等に附着し誠に見にくゝなり升

普通に髮の毛の有る方にて赤毛白毛を御いといの方はぜひ一個を御求め御試しあれ染方手輕にして天性の毛色の如く誠に美しく染り升

千代ぬれ羽販賣所 至る所御近所の小間物化粧品藥店

定價 大一個 金三十錢
定價 小一個 金十七錢

登錄商標


本舖 東京 服部松榮堂

染付方は現品に添へてあります

明治四十二年三月廿日發行（毎月二回五日廿日）
（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）廣告料一行金六拾錢
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 永持德一
發賣所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所
發行所 同京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附録 愛國婦人會記事

竹の園生

竹田宮の御慶事
恒徳王の御誕生

豫て御姙娠中と洩れ承りし竹田宮恒久王妃昌子内親王殿下には、去四日午後二時御分娩王男子御誕生相成りたるが、御母子共健全に渡らせらるゝ由にて、去十日御命名式を、高輪南町の御本邸に於て行はせられ、左の如く官報號外を以て發表せられたり

宮内省告示第三號

三月四日午後二時誕生せられたる恒久王殿下の王男子を恒徳王と命せらる

明治四十二年三月十日

宮内大臣伯爵　田中光顯

▽**御産氣の御催**　謹んで當日の御模樣を拜聞するに、妃殿下には平素頗る御壯健に渡らせ給ひ、御産期間近に渡らせ給へど何の御變りもなく三日は例年上己の節句とて折柄御尋ねありし御妹周宮殿下と雛の御祝事ありて御氣色も異らせ給ふ處なけれど日時よりして最早御産氣のつかせ給ふべき筈なれば御養育掛たりし佐々木伯夫妻は固より御産婆岩崎直子氏も詰切りて御待受申上げしに四日午前五時五十分御産氣付せ給ひたれば直に豫て御準備ありし隣室の御産褥に移し奉り一方其旨各所に電話を以て通じたれば此旨を傳へ聞きて御見舞の馬車を駈るもの多く午前中御宮邸には此御客織るが如かりしが午後二時と申すに王子御誕生あり妃殿下にも御産後至つて御健全にて約三時間にして王子は御産湯妃殿下は御腰湯を召されたり

◆**兩陛下の御滿足**　王子御誕生に付き宮内省よりは皇室誕生令に依り式部官子爵松平頼和氏を御差遣相成りたるが去る十日御命名式を行はれ當日直ちに山口圖書頭は皇統譜に登録せられたるが倘ほ御分娩の當日即刻御母子共御健全に渡らせらるゝ旨田中宮内大臣より天皇皇后兩陛下に奏上したるに兩陛下は非常に御滿足に渡らせられたるやに承る殊に御仲睦じき御妹宮周宮内親王殿下には去廿八日よりは大抵毎日の樣に南町御本邸に成らせられしが四日朝御産氣の旨聞かせらるゝや早くも御訪問何かと御配慮あらせられ御分娩の時は姉宮殿下の御次室に於て侍醫産科婦等に種々御指圖もありたると承る

▽**御肥立ちの御經過**　更に何等の御障りもなくして頗ぶる御健勝に渡らせ給ふ朝夕の御食事も拜診の侍醫より申上る牛乳スープの如き流動物を食召されて御産褥にあらせられ專ら御安靜を取らせ給ふ王子新宮殿下も五日始めて牛乳を差上げしがいと〱御强健にて御泣聲も高く御肥滿に渡らせ給ふ由にて體量は實に八百六十五匁と申す稀有に大きくあらせらる倘ほ承る處によれば御養育に關しては凡て御父母兩殿下の御理想通りに遊ばされ何れ御身體の回復を待ちて宮妃殿下には自ら御哺乳を遊ばさるゝ事となるべしと承はる而して五日には　聖上陛下より御見舞として三種肴を賜はり韓國皇太子殿下には小田原御用邸より態々皇宮太夫を御使として御慶賀の鮮を贈らせられたりと云ふ

▽**御祝宴**　竹田宮御邸に於ては若宮御命名の御式を濟ませられて後前記の如く正午十二時御祝宴を催させられたりその御模樣を洩れ承はるに同宮にては未だ御洋館の建築成らざる際とて日本室なる表拜謁の間二間を通して會食堂に當てさせられ御主人側としては軍服を召されたる恒久王殿下、齋藤御用取扱、加賀美御用掛深山家令、來賓は周宮房子内親王、北白川宮大妃、同成久王、武子女王、擴子女王の各皇族殿下を始め奉り左記の諸氏參列したり

有馬伯夫人、德大寺侍從長、佐々木伯夫人、園池典侍、花房宮内次官、香川皇后宮太夫同令嬢、渡邊内藏頭、岩倉侍從職幹事同夫人、中村侍從武官長、村木東宮太夫、藤波主馬頭、戸田式部長官、岡侍醫頭、齋藤長崎調度保夫妻、下田、堀江御用掛、佐々木鶴子、股野博物館總長、小笠原主殿、片山内匠、福羽内苑、米田主猟、山口圖書各頭、桂、丸尾兩御養育係長、田御用掛同夫人、相礒、田澤四郎、各侍醫、丹羽、萬里小路、山邊各式部官、細川御用掛、同夫人、壬生御附武官、同夫人、其他各宮家職御用掛等

若宮殿下御發育
拜診せる長田侍醫談

御降誕に就き拜診の御用を仰付けられし侍醫長田重雄氏より陛下御强健なる御發育の次第を承はる事を得たり

▽**お頭髮の毛**　王子樣御降誕遊ばされしと云ふお召しに依り早速參殿いたし當日の午後四時頃御居間に罷りて拜診致しました處頗る御健康なる御體格に渡らせられ最も目出度き御事とお歡び申上げました、先づ御體量は八百六十五匁と承り普通健康兒の體重に比べますと六十匁以上の御增量で是れは御發育の最も御健かなるは何より好き證據で御座います、夫れにお頭髮の毛なども餘り薄くもなく左りとて又濃過ぎもせず房々として誠に壯健の御狀態を拜しました

▽**御母乳を差上る事**　若宮殿下の御居間は母宮殿下の御隣室に設けられてありますが御誕生の當時は一般保育上の成規通り少しく御部屋の光線を薄暗く致して御座います、お乳も母宮殿下の御氣分次第にて御母乳を差上る事に決定致されたのは何より結構な事で王子樣の御成育も益々御健全に渡らせらるゝ事を保育上の實驗から申上げても頗る喜ばしい事であります

△**三個の湯婆**　御寢床は總て白羽二重を用ゐられお枕も矢張り此の布で被覆いたしてありますお床の中は常に程よき温暖を保つ事が御大切故左右の御兩側と後部の御足の方に都合三個の湯婆を置かれてあります、爾うして尤も熟練なる看護婦が二名或は三名宛交代にてお側に侍き參らせおむづかり遊ばす時其他お乳の事お召の事など悉く御世話申上げて居ります

本部近況

□**評議員會日取**　本月の評議會員は來廿四日（第四水曜日）本部に於て開催す

□**本年度總會**　第八回總會は前號所報の如く、來四月五日（月曜日）午前十時より日比谷公園内に於て開催す。

□**見舞**　本會顧問子爵谷干城氏病氣に付本月十三日評議員有島幸子氏は會長代理として同氏を見舞たり。

□**擴張部**　擴張委員八田一精氏は本月十五日千葉支部へ出張し、翌十六日歸京せり、猶、二十日後に長野支部へ出張の豫定なり。

□**東京支部**　主事清水善五郎氏辭職に付き主事代務を擴張委員八田一精氏に、會計事務取扱を救護課長高村光熙氏に、何れも囑托せられたり。

□**韓國宮内府大臣一行と本會**　去九日午前八時高木評議員は本會々長代理として築地メトロポール　ホテルに韓國宮内府大臣及女官千尙宮外二名を訪問し大臣には金蒔繪硯箱、女官には各大巾白羽二重一反宛を贈呈し從來本會の爲めに盡せる好意に對し謝辭を述べ且つ將來一層の同情を得んとを述べしに對し一行は一同滿足の意を表し本會將來の發達を祈る旨一同に代り千尙宮には述べられたりと云ふ

□**救護に對する禮狀**　去二月四日高崎聯隊内に不慮の災ありたるに際し、本會より救護金を送りたる事は、當時報導したる通りなるが、夫に對し當該遺族よりの禮狀は左の如し。

今回高崎步兵聯隊内にて教練中旋風の爲め宮原仙八郎重傷に罹りし際、衛戍病院に於て種々御厚情を蒙り、特に御多額の御見舞下され難有頂戴致し候處、療治効なく去八日午前八時頃病院内にて死去仕候間十二日を以て埋葬致し候故、此段取敢ず御禮かた〲御報知迄申上候匆々

不具

群馬縣碓氷郡九十九村大字小日向、遺族
宮原鹿造

愛國婦人會長殿

子爵小笠原長生立案
陸軍少將佐藤正校閲
愛國婦人會編
奧村五百子詳傳　全一冊

刊行以來僅々數ヶ月の間に、多大の部數を提供したる本書の内容は、既に世の定評あり、我が愛國婦人會の主唱者たる刀自の面目は、髣髴として本書の誌面に現出す、而して本書は刀自の傳記を詳かにすると同時に我愛國婦人會の過去及將來の方針を知らんとする者の燈明臺なり、須く諸氏の購讀を勸む。

殘部既に數百部に過ぎず、速かに申込まれざる時は、悔ゆとも及ばざる事を記臆せられよ。

△定價金五十錢郵稅東京市内四錢他は八錢

申込所　愛國婦人發所行

季節向流行品各種

●西京鹿ノ子絞リ。御かみかけ類。友仙染●
●ふくさ。帶上腰帶。金銀金具附帶止類●

半ゑりは赤のまんに限る

本店　神田表神保町壱番　電話本局二八五三
出店　新橋博品館階上

●紙入寶入。千代田袋。箱セコ袋物類●
●御羽織紐。小兒御守巾着類。巾よだれかけ●

正札附廉價販賣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部近況

▽東京支部△

□總會の設備　當支部に於ては總會に際し從來、管下各幹事部各自に設備を爲したれど、本年四月五日開催の、第八回總會よりは凡て支部に於て、設備を擔當する事と改めたり。猶當日は餘興として海老一の曲藝を觀覽に供し、遺族廢兵の參列者には紀念品及すし折を贈與す。

□授產場規則　今般左の通り決定、來四月一日より施行す。

授產場規則

第一條　本場は軍人戰病死者遺族又は廢兵及其家族を收容し產業を授け救護を爲すを目的とし、之を愛國婦人會東京支部授產場と稱す

第二條　本場の事業は愛國婦人會東京支部の附帶事業とす

第三條　本場に左の役員を置く

一　主管　壹名
一　委員　若干名
一　會計主任　壹名
一　技手　若干名

必要により雇員を置くことを得

第四條　前條の役員は支部長の囑託又は採用に係るものにして男女を混ず

第五條　主管は支部長の意圖を受け之が事業を經營し、全般の責に任ず

第六條　委員は工場の衛生及風俗秩序を維持す

委員は主管の協議に依り原料の購買及製品販路の擴張及び就業生募集等に從事することあるべし

第七條　會計主任は左記の事項に關する責任を分擔す

一　金品の出納及決算
一　就業生工錢の支償
一　原料の購買
一　製品販賣及其代金支拂請求前各項の事務は主管を經由して之を處理す

第八條　技手は就業生に其業を教授し常に製品の精粗を點撿し、之が精巧を圖る又就業生の勤怠及成績を檢査し每月末日に於て之を主管に報告す又每日原料の遣拂ひ及製品の點數を整理し翌朝會計主任に報告す

第九條　會計主任は每月一日に於て前月中の原料遣拂ひ及製品の點數又は販賣點數及其代金等一覽表を製し主管に報告するを要す

第拾條　會計主任は每年六月十二月の兩度に本場の會計を決算し、之を支部長に報告す

第拾一條　就業生工錢の區別は別表に依る

第拾二條　事業は每日午前八時に始め午後四時に終る

但日の長短に因り之を伸縮す

第拾三條　每月一日十五日及三大節は休業とす

第拾四條　收容者幼兒保育に關する規定は別に之を定む

以　上

▽京都支部△

□幹事部總會　天田、船井の兩幹事部にては、來四月上旬を以て總會を開催する由因に右幹事部は近來會務著しく發展し會員數も頗る增加したりと。

□愛國義塾入學者　本月二十一日より開塾すべき愛國義塾への、入學希望者中、京都支部管內より左記三名入塾の事に決定し、十九日夜行列車にて室谷事務員附添ひ東上せり

紀伊郡向島村字下ノ町十一番戶
元步兵一等卒黒川亦吉弟　黒川留次郎

南桑田郡千代川村字小川
元步兵一等卒小川勝次郎長男　小川右一

船井郡新庄村字山室
元步兵一等卒松本瀧三郎弟　松本廣三

□主事の更迭　主事高木亥三郎氏一身上の都合を以て今回退職せられ、後任として元京都帝國大學會計課長たりし大舘暢氏に囑託せられたり

▽岡山支部△

□都窪郡幹事部　第五回總會を第二十八日に開催の豫定にて、去六日倉敷女子尋常小學校に於て、全幹事會を開き、裝飾準備等に關する打合會をなしたる由。

△長崎支部△

□弔慰　西彼杵郡三重村田崎顯市氏は臺灣守備隊步兵第二聯隊第十中隊の上等兵として勤務中去一月二十一日反抗蕃社討伐隊に加はり、臺東廳長脚川西方高地に於て村葬を以て葬られたるが、本會よりも弔慰の爲、弔辭に金若干圓を附して遺族に贈れり。

▽韓國支部△

□龍山委員部　副長兼古綱子氏は同會事業に對する功勞不尠今回總裁殿下より、三等有功章を下賜せられたるにより、去一日午後一時より、龍山民團役所樓上に於て授與式を行ひし由、因に同氏の本會事業に對し盡したる功績は、韓國に於て多く其比を見ずと。

▽靜岡支部△

□田方郡幹事部　二月廿一日伊東町外九ケ町村東部總會を赤十字社と合併して伊東町尋常高等小學校講堂に於て、擧行し、尾崎李家支部顧問李家支部長田中主事、尾崎幹事部顧問等參列、來賓は鈴木元全郡幹事部顧問、山縣事務官及滑水郡視學、高木靜岡民報新聞社員、下大見、中大見、上大見、對島、小室、伊東、宇佐見、網代多賀、熱海の各町村委員にして、出席會員及赤十字社員、學校職員生徒無慮千貳百餘名にして、午后一時半開會、國歌奏樂に始まりて尾崎幹事部顧問令旨を捧讀し會員表を支部長に呈出し、支部長より有功章を受章者に授與し、次に支部長の告辭、尾崎幹事部顧問の答辭、來賓總代の祝辭を始め祝辭、答辭等相次ぎ、最後に李家支部顧問の發聲にて、兩陛下万歲を三唱し愛國婦人會の万歲を一唱して、靜肅に散會を告げしは午後四時なりき、當日は余興として學校生徒の祝意信號、投餅、福引、烟火、摸擬店、紀念品の配付等ありて頗る盛況を極め、此擧により前記東部に於て、有功章者三名、會員約七十余名を增加せり、而して當日一般來會者の展覽品として陳列せし古書古器物は孰れも溫古知新の資料たるもの多く又學校生徒の書畫裁縫手工物品は倶に注目に値せり、午后六時よりは全町前田屋に晚餐を開き、支部長以下來賓等數十名列席し、各自十分の歡を竭し、終て一同伊東町有志者の寄付に係る、餘興演劇を觀覽し、午後十時退散せり。此日當地方は稀有の烈風吹荒みたるにも係らず、盛況を極め、同町各商店は協力して景品は大賣出を催して祝意を表し、有志者は餘興新聞なるものを印刷刊行して會狀を迅速に報導する等、注意周到にして、參列者の優遇に努めたるは、全郡幹事部以下役員諸氏の熱誠なる盡力の致す所なりと雖も、就中大原伊東町委員の殆んど寢食を忘れて一般會員及來賓の接待に斡旋したるは、衡に欽賞すべき所なりとす。

足袋販賣廣告

一足袋は愛國婦人會東京支部授產場に於て軍人戰死者遺族並に廢兵家族の裁縫したるものにて尤も丁寧親切に調製してあります又直段も格別安く販賣致します

一足袋の地質は特に吟味しあれば直段の安き割合に丈夫に出來て居ます故御求の上御驗を願ひます

一足袋は裁縫教師として都下有名の職人を雇入れ其監督の下に出來たるものにて形も好く又穿き工合の宜しき事は昨年來既に御使用の方々の間に好評を博して居ります

一足袋の種類は左表の外紺瓦斯織、コール天、あり外にシャツ袴下小兒胸掛(エップル)西洋前掛等も調製販賣致します

一純白絹天足袋は美麗なる箱入てありますす故御進物等には最適當と思ひます

一市內に限り十足以上は送料を申受ません

東京市麴町區飯田町九段坂下公園

愛國婦人會東京支部
授產場販賣部

電話番町五二〇、一、七四五　郵便振替口座一五、一一四

足袋販賣價格略表

注意
一御誂別織は壹錢以上增、[illegible]目なし貳錢增
一單足袋は袷より貳錢增、爪先三枚は貳錢五厘增、裏紋羽は一錢五厘增

種 / 文	十文	九文	七文
紺雲齋底	廿九錢	廿七錢	十七錢
紺石底	三十錢	廿八錢	十七錢五厘
白木綿雲齋底	廿六錢	廿四錢	十五錢
白木綿石底	廿七錢	廿五錢	十五錢五厘
白キャラコ木綿裏雲齋底	廿七錢	廿五錢	十七錢
白キャラコ紋羽裏雲齋底	廿八錢五厘	廿六錢五厘	十八錢
純白絹天木綿裏雲齋底	五十錢	四十八錢	三十六錢
紺キャラコ木綿裏雲齋底	三十三錢	三十一錢	廿二錢

○八文七分以上は半文毎に壹錢增

廣告

來る四月五日午前十時より日比谷公園に於て第八回總會開催候に付會員諸氏に對し各幹事部より夫々招待狀差出候へども所在不明等の爲御手許へ屆かざる向も可有之哉と懸念致候就ては招待狀不着の諸氏と雖も總會當日徽章御佩用の上御來會被下候はゞ御入場差支無之候間念の爲此段廣告候也

明治四十二年三月廿日

愛國婦人會東京支部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

久邇宮妃殿下最近の御肖像

愛國婦人第百七拾三號附錄

明治四十二年三月廿日(毎月二回五日廿日)發行

明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所　印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN